

四條畷市福祉計画検討委員会 議事録（障がい福祉課）

日時：平成25年8月20日（火）午後2時10分～午後3時10分

於：四條畷市役所 水道局2階 大会議室

<出席委員>：小寺委員長（議長）・山上委員・石井委員・湯元委員・村上委員・北川委員・守屋委員・矢田委員・福田委員・佐藤委員・久門委員・大滝委員・森田委員・本出委員

<事務局職員>：辰巳 三谷 岡本

1. 「第2期なわて障がい者プラン（後期計画）―四條畷市障がい者基本計画―」  
および「第3期四條畷市障がい福祉計画」  
現状と課題及び平成25年度の取り組みの方向性について

事務局より、福祉計画検討委員会資料をもとに説明

2. 福祉計画検討委員会資料に関して質疑

北川委員 課題が多いのでは？一つでも充実している項目はないのでしょうか？今後、方向性として重点的にやっていく所を抜粋してはどうか？

事務局 3月の会議では実績や進捗状況を中心に説明をした。今回は、今年度初めての会議でもあったので、課題と今年度取り組む予定の内容についてあげさせてもらった。

重点的に取り組む事業とその事業実施の目途としては、児童発達支援センターについては、平成27年度を目途に整備し、また通学支援・宿泊居室の確保については来年度実施したいと担当課としては考えている。計画相談支援は今年度積極的に行っていきたい。障がい者優先調達方針の策定については、大阪府の指針を受けて策定する予定である。

守屋委員 発達障がい児について、他の子ども関係機関と連携はとれているか？

事務局 発達障がい児のみの検討会議ではないが、本市の障がい児施策の中長期的な取組について検討する会議として、障がい児施策検討委員会を開催している。参加機関としては、保健センター・子育て総合支援センター・くすの木園・子ども福祉課・学校教育課・青少年課・人事課・企画経営課、保育所、障がい福祉課等であり、平成27年度の児童発達支援センターの整備や連携について検討している。

山上委員 施策目標が7つもあり、現状と課題について各項目きちんとまとめられている。これ程の課題を職員6～7人で取り組むのは無理であろう。計画相談についても平成27年度までに仕上げるのは困難な状態である。多くの職員がいる市だとしても、これ程の目標をこなすのは限界がある。今後、障がい者のために福祉検討委員会でも、おのおの委員が施策目標を見つめていく必要がある。

事務局 障がい福祉施策は毎年法改正が行われその対応に追われ、また障がい福祉課としての業務内容が多く窓口業務も多いので、日々の業務プラス新たな施策へ対応するのは大変な状況である。今年度は正職員が1人増、非常勤職員が1人減で、職員数は変わっていない。当課のみでは対応できない事も多いが、障がい福祉施策を推進する必要があるので、福祉計画検討委員会や自立支援協議会、障がい児施策検討委員会等様々な機関との連携を深め推進していきたい。

石井委員 以前と比べて障がい福祉課は良い方向へ変化してきている。ただ一つ要望するとしたら、心のケアを保てる相談員がほしい。中途障がい者は、特に不安やストレスが多いと思う。窓口で書類上のやり取りをするのが辛い障がい者も多いはずであり、是非相談員がほしい。

事務局 心のケアを専門で行う、心理職等についての配置等はすぐには難しいと考えるが、障がい福祉課職員や、障がい者相談支援センター職員等が、日頃の相談等の中で、障がい者の心のケアに配慮した関わり方に努めていきたい。

守屋委員 障がい施策の中心は障がい者であるので、当事者の意見をどん

どん吸い上げてほしい。

村上委員 地域移行について、精神障がい者も対象となっているのか？

事務局 対象になっている。入院中の精神障がい者の中には、入院が必要な治療は終了しているが、家族がいない、住む場所がないなどの理由で、退院等が困難な状況の人がいる。アンケート調査からも退院希望の障がい者がいる事が分かっている。受け入れ体制の面で課題が多く残っている。

村上委員 大家連など、直接家族の人が相談を聞いていたりするが、四條畷にもあるか？

事務局 心の病をもつ人を支える市民の会スクラム、心の病をもつ人の家族会・ボチボチの会、精神障がい者当事者の会・心ほがらかホッとラインなどがある。

本出委員 相談したい事があっても答えたくない所もあり、是非ともプライバシーについては守ってほしい。

守屋委員 清滝団地にグループホームが出来た時は大反対があった。ただ、障がい者とふれあう事で理解しあえる。啓発がいかに大切か分かってほしい。

事務局 普段よりの障がい者との付き合いが大切である。今年度、啓発をかねて様々な講演会を開催している。今後、精神障がいについての講座も考えていきたい。